

令和元年度第2回地球温暖化対策の検討に関する専門委員会 議事概要

日時 令和元年11月13日(水) 15:00~16:30
場所 埼玉会館2階東西会議室
出席者 植松座長、秋元委員、大久保委員、工藤委員、高口委員、田中委員、
八木田委員、吉澤委員(以上8名)

1 開会

2 環境部長あいさつ

- ・ 令和元年10月の台風19号では、本県でも幾つかの河川が決壊し、大きな被害をもたらされた。こうした災害の激甚化を考えると、気候変動を自分事として捉える段階になってきたのではないかと考える。
- ・ 国では気候変動の影響を踏まえた治水計画を検討するという方向性も出てきている。適応策等の動きの中で、5年後、6年後を見据えるのは難しい面もあるが、委員の御知見、御意見をいただきながら良い計画にしていきたい。

3 議事

(1) 埼玉県地球温暖化対策実行計画大綱案について

◇事務局 資料1、資料2を用いて説明。

【委員からの主な意見】

- SDGsと計画内の施策との関連を記載した方が良い。
→ (事務局) 適切な記載方法を検討する。
- 世界、日本、埼玉の気温上昇に関する考察があると読み手の理解が進む。
→ (事務局) 記載方法を検討する。
- 産業部門の将来像にもヒートアイランド対策に関する記述を記載したほうが良い。
→ (事務局) 記載方法を検討する。
- まちづくりの将来像にレジリエンスの要素を加えるべき。
→ (事務局) 記載を検討する。
- 協働主体として大学や研究機関を明記してはどうか。

→（事務局）記載を検討する。

- 家庭部門の CO₂ 排出量削減には環境教育が重要であり、重点的に行っていくべき。
→（事務局）緩和策の部門横断的対策に位置付け、ソフト対策として重視している。
- 対策関連指標を計画に入れ込んだらどうか。
→（事務局）上位計画との兼ね合いもあるため、計画策定後、進行管理の中で対策指標による管理という考え方について検討したい。
- 最終目標が「脱炭素化」ならば、2030 年度までの取組は「低炭素」ではなく「脱炭素」を目指すという書き方にすべきではないか。
→（事務局）より適正な表現を検討する。
- 第7章で緩和策、適応策の両方に触れ、総合的な温暖化対策の推進体制を記載できるよう内容を整理した方が良い。
→（事務局）整理を検討する。

4 閉会

以上